

平成 28 年度長崎大学トップセミナー 報告書

【日時】平成 28 年 12 月 22 日（木）15：15～16：15（教育研究評議会後）

【場所】＜本会場＞事務局第一会議室（教育研究評議会会場）

＜サテライト開場＞文教キャンパス 教養教育棟 A24 教室

坂本キャンパス ポンペ会館セミナー室

【講師】名古屋大学副理事（男女共同参画担当）／男女共同参画室長

／名古屋大学大学院生命農学研究科教授／農学博士

東村 博子氏

【対象】役員、管理職、教職員

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」のもと、女性研究者の採用、在籍率の向上、上位職への登用促進等に向けた意識改革を目的として、役員や学内管理職を主な対象としたトップセミナーを開催いたしました。今回のトップセミナーは、役員・副学長・部課長が出席・列席する教育研究評議会後に、評議会と同会場にて開催し、その模様を文教キャンパスおよび坂本キャンパスに設けた会場で同時放映しました。サテライト会場を設けるにあたっては、機材の準備や設置、当日の実施について、学術情報部情報企画課の皆様にご大変お世話になりました。御礼申し上げます。

【参加者】42 名（サテライト会場含む）

うち、役員、管理職 29 名）

【開催内容】

はじめに、ダイバーシティ推進センター長の伊東昌子副学長から本会場、サテライト会場にて本セミナーに参加している方々に、東村先生のこれまでのご活躍についての紹介がありました。また、昨年、名古屋大学は、国連機関 UN Women が取り組む女性の権利と男女平等を支援する HeforShe の関連事業「インパクト 10×10×10」において、大学部門で日本で唯一選出されたことについても紹介されました。そのうえで、今回のセミナーは、長崎大学の今後を考える貴重な機会



となることを願って企画したことが述べられました。

東村先生は冒頭、名古屋大学が日本で最も女性活躍が進んでいる大学と言われていることから、ますます力を入れて進めていかなければならない責務を感じているとの話がありました。

その後は、配布資料に沿って、「女性活躍の推進が求められている背景」「男女はどう違うのか？生物学的な性の成りたち」「戦略としての男女共同参画」「名古屋大学の男女共同参画の取組」について講演いただきました。



講演のなかで、日本は世界に比べて管理的職業に従事している割合はまだまだ低いがそこにこそ活性化の伸びしろがあると考えていること、個人差を性差と混同しないこと、スーパーウーマンをロールモデルのように紹介することの弊害(あんなに頑張らなければならない…、女子学生が夢を持てなくなる)、女性が活躍できる組織は女性だけでなく男性にとっても働きやすい組織であること、性別にかわりなく個々人の自己実現とやる気が大学や組織

を活性化させるものであることなどを、熱く伝えてくださいました。

また、名古屋大学では、大学の社会的な評価を上げるための戦略として男女共同参画や女性活躍推進を活用してきたこと、他大学への波及効果とポジティブフィードバックにつながっていること、そのような取組の成果もあり今回の「インパクト 10×10×10」の一大学としての選出につながったことが語られました。

講演後、参加者からのアンケートでは、「(東村先生) ご本人が力強いキャリアモデルであると感じた」「明快な説明で大変参考になった」「パワフルで説得力のあるお話だった」「もっともっと女性を登用すべきと感じた」「戦略の重要性を再認識した」「女性のトップ、活躍の必要性について理解できた」等の感想がありました。